

九州北部豪雨を踏まえた取組の進捗状況(概要)

○平成29年7月九州北部豪雨等により明らかになった課題を踏まえ、九州北部豪雨で甚大な被害を受けた河川の復旧を緊急的に進める「九州北部緊急治水対策プロジェクト」、九州北部豪雨等の教訓を踏まえた全国の中小河川の対策を緊急的に進める「中小河川緊急治水対策プロジェクト」をとりまとめ、対策を実施。

<明らかになった課題>

- 山地部の河川で土砂や流木を伴う洪水が発生したこと
- 中小河川で度重なる浸水被害が発生していること
- 洪水時に河川の状況をリアルタイムに把握できなかったこと

九州北部緊急治水対策プロジェクト

被害を受けた河川の早期復旧を平成34年度目途に実施

<河川・砂防・地域が連携した復旧>

- 赤谷川等において、全国で初めて権限代行等により県に代わって国が実施
- 権限代行を行っている赤谷川では、出水期前に被災前と同等の安全度が確保できるよう、被災前と同等の規模の河道断面を確保
- 土砂や流木を捕捉するための砂防施設を設置

<様々な事業・制度を活用した迅速な復旧>

- 大量の土砂・流木により埋まった河川について、掘り返すことなく公共土木施設を「全損」として扱い、迅速に災害査定を実施
- 著しく埋まった河川について国庫負担率が2/3以上の災害復旧事業「一定災」を実施
- 福岡県においては12月、大分県では1月に災害査定を終了
- 被災した全ての河川に必要な応急復旧を完了し、引き続き本復旧を進めており、約7割の箇所が契約手続きが完了するなど順次工事を推進 ※5月末時点

<危機管理型水位計の設置とリスク情報の活用>

- 洪水に特化した低コストの水位計(危機管理型水位計)を設置
- 特に被害の大きかった赤谷川、桂川、大肥川等の河川で設置が完了
- 自治体や住民への水位情報の提供を随時開始(福岡県3河川、大分県46河川)

中小河川緊急治水対策プロジェクト

全国の中小河川の緊急的な対策を平成32年度目途に実施

<土砂・流木対策>

- 土砂・流木捕捉効果の高い透過型砂防堰堤等の整備
- 約500河川のうち約3割の河川で現地着手済み

<再度の氾濫防止対策>

- 多数の家屋や重要な施設の浸水被害を解消するための河道掘削・堤防整備等
- 約400河川のうち約4割の河川で現地着手済み

<洪水時の水位監視>

- 洪水に特化した低コストの水位計(危機管理型水位計)を設置
- 福岡県、大分県の被災河川などで設置が進捗

九州北部緊急治水対策プロジェクト(概要)

九州北部豪雨では、7月5日の昼頃から夜にかけて強い雨域がかかり、筑後川、遠賀川、山国川の流域で短時間に記録的な雨量を観測。筑後川右岸流域の河川では、堤防決壊等による浸水被害に加えて、大量の土砂・流木を伴う洪水による甚大な被害が発生。

このため、甚大な被害を受けた河川において、「九州北部緊急治水対策プロジェクト」として、再度災害の防止・軽減を目的に、全体事業費1,970億円により、ソフト対策と併せて平成34年度目途に緊急的・集中的に治水機能を強化する改良復旧工事等を実施。

『九州北部緊急治水対策プロジェクト』の主なポイント

①河川・砂防・地域が連携した復旧

- 筑後川水系赤谷川流域では、一定程度の降雨に対し、山地部では土砂・流木の流出を防止する「砂防堰堤等の整備」、河川上流では土砂・流木を捕捉する「貯留施設の整備」、洪水や土砂を下流まで円滑に流す「河道の改修、河道形状の工夫」を実施し、土砂・流木を伴う洪水氾濫を防止。
- また、地域と一体となって、今回の災害と同規模以上の降雨に対してさらに安全性を高めるための検討を実施。



筑後川水系赤谷川における土砂・流木による埋塞状況

②様々な事業・制度を活用した迅速な復旧

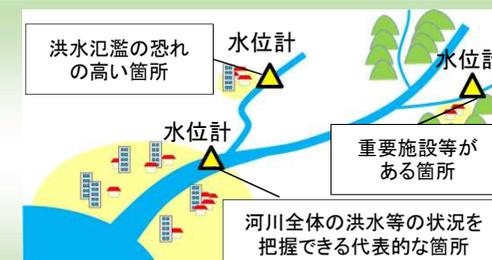
- 土砂・流木等で大規模に施設が埋塞した筑後川水系赤谷川流域、白木谷川流域及び北川流域の災害査定において、埋没した公共土木施設について掘り起こすことなく「全損」として扱うことで、災害復旧への着手が大幅に迅速化。
- また、これら埋塞した河川で災害復旧事業（一定災）を初めて活用し、査定設計書の作成などの事務手続き及び地方負担を軽減。
- 国が赤谷川上流部等において土砂、流木の流出を防止する砂防堰堤を整備するとともに、筑後川支川の整備と一体となって筑後川本川の整備を実施することで、被災地の復旧を迅速化。
- 河川法に基づく権限代行制度を初めて活用し、赤谷川流域において、二次災害防止のための工事に加え、河道整備や流木等貯留施設の整備など本格的な復旧工事についても、国が県に代わって実施。



大量の土砂で埋没した赤谷川

③危機管理型水位計の設置とリスク情報の活用

- 九州北部豪雨では、洪水時に河川の状況をリアルタイムに把握できなかったことに加え、事前の想定とは異なる現象によって被害が発生。このため、洪水に特化した低コストの水位計（危機管理型水位計）の設置を推進するとともに、浸水実績や地形情報等を活用したまちづくりの検討を支援。
- 併せて、洪水情報の携帯電話ユーザーへの直接配信や防災教育の充実に向けた支援等も実施。



水位計の設置箇所のイメージ

全国の中小河川の緊急点検結果と対応策(概要)

九州北部豪雨等の豪雨災害による中小河川の氾濫など、近年の豪雨災害の特徴を踏まえて実施した、「全国の中小河川の緊急点検」の結果に基づき、土砂・流木捕捉効果の高い透過型砂防堰堤等の整備、多数の家屋や重要な施設の浸水被害を解消するための河道の掘削等、洪水に特化した低コストの水位計(危機管理型水位計)の設置について、平成32年度を目途に対策が行われるよう、交付金による支援等を実施。

全国の中小河川 約2万河川

都道府県と連携して点検を実施し、優先箇所を抽出

土砂・流木による被害
の危険性

透過型砂防堰堤等の整備

約700溪流
(約500河川)

<抽出の考え方>

土砂・流木を伴う洪水により被災があった溪流で、流木捕捉機能を有する砂防施設等がなく、下流の氾濫域に多数の家屋や重要な施設(要配慮者利用施設・市役所・役場等)を抱える溪流



赤谷川における土砂・流木被害

再度の氾濫発生
の危険性

河道掘削・堤防整備

約300km
(約400河川)

<抽出の考え方>

近年、洪水により被災した履歴があり、再度の氾濫により多数の家屋や重要な施設(要配慮者利用施設・市役所・役場等)の浸水被害が想定される区間



桂川における浸水被害

洪水時の水位監視
の必要性

危機管理型水位計の設置

約5,800箇所
(約5,000河川)

<抽出の考え方>

人家や重要な施設(要配慮者利用施設・市役所・役場等)が浸水するおそれがあり、的確な避難判断が必要な箇所

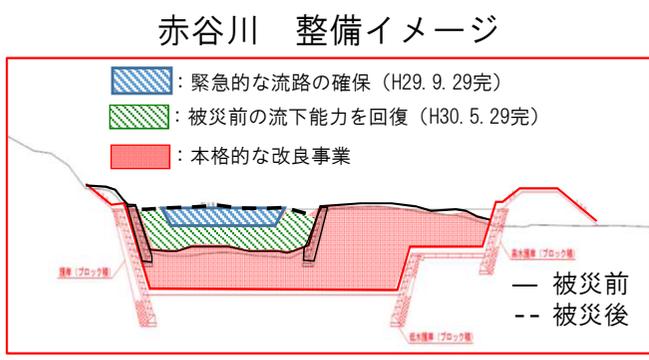
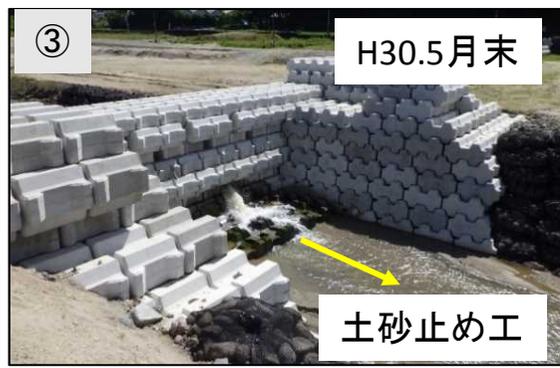
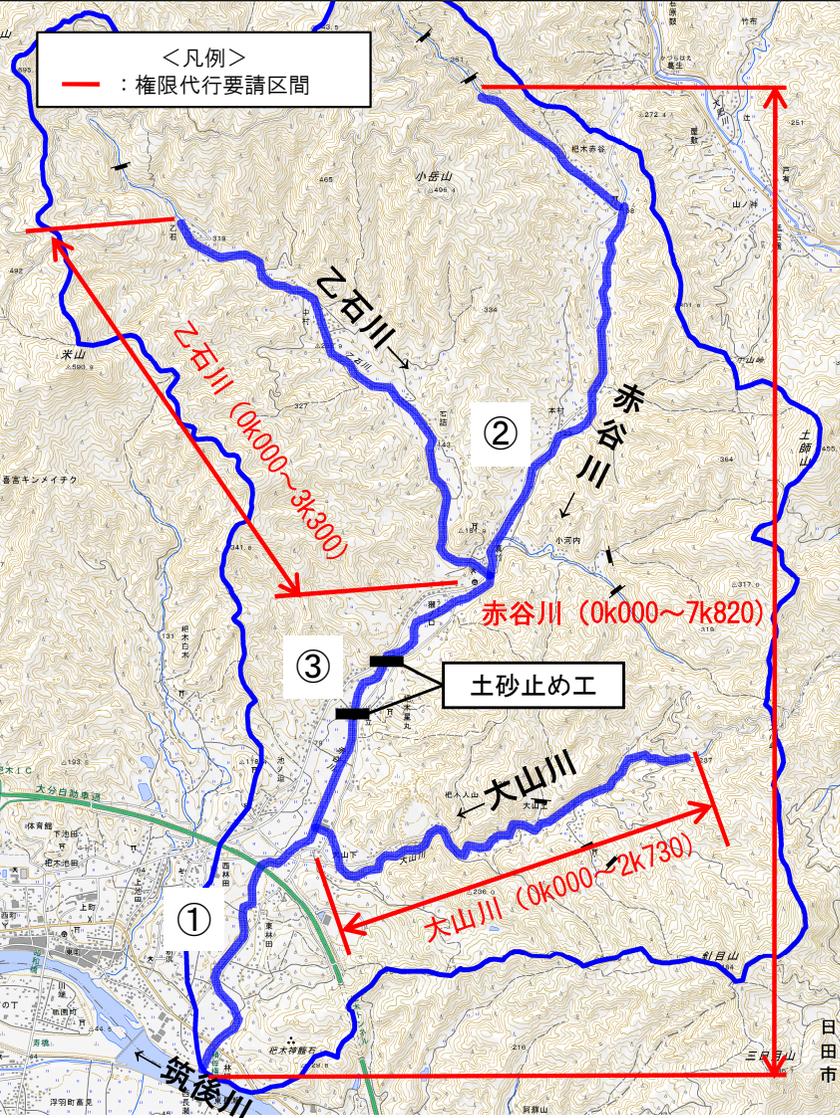


洪水に特化した低コストな水位計の設置例

緊急点検を踏まえた中小河川緊急治水対策プロジェクトとして全国の中小河川で実施 (全体事業費約3,700億円)

九州北部緊急治水対策プロジェクト 筑後川水系赤谷川(河川)

- 大量の土砂や流木等により甚大な被害が発生した筑後川水系赤谷川等において、技術的難易度が高いこと等から、緊急的な流路の確保を、国が権限代行により実施することを決定。(H29. 7. 18)
- 河道整備や貯留施設整備など本格的な改良復旧事業(事業費:約336億円、事業期間:平成33年度目途)についても、権限代行により実施することを決定。(H29. 12. 1)
- 出水期前に被災前の河川の流下能力を概ね回復。(H30. 5. 29)
- 引き続き、国による権限代行により、本格的な改良復旧を実施。



九州北部緊急治水対策プロジェクト 筑後川水系赤谷川等(砂防)

- 筑後川水系赤谷川において、流域内に不安定な状態で残存している土砂等の再移動による二次災害を防止・軽減するための強靱ワイヤーネット、遊砂地等の緊急的な対策を完了
- 緊急的に設置した遊砂地が、H30.6.19出水の際に約650m³の土砂を捕捉し効果を発揮
- 引き続き、赤谷川流域全体の土砂・洪水氾濫を防止するため砂防堰堤等の整備を推進

①乙石川(上流)



②乙石川(下流)



出水期前に緊急的に設置した遊砂地が、H30.6.19出水の際に約650m³の土砂を捕捉し効果を発揮!!

平面図



凡 例	
	強靱ワイヤーネット (済)
	土砂捕捉施設 (済)
	遊砂地 (済)
	既設砂防堰堤の除石 (済)
	砂防堰堤 (今後設置)

③本村川



